1　2　3　4　5

豊島区の文化財展2013

はじめに

豊島区では、1986年に文化財保護条例を制定し、地域の歴史、文化や、昔の人々の生活の様子がわかる貴重な文化財の保護に取り組んでいます。これまでに区指定文化財14件、区登録文化財345件を、次代に残すべき文化財として指定・登録し、所有者のご協力を得て、その保護と普及に努めています。

今年は、豊島区で初めての本格的な発掘調査が染井遺跡で行われてから25年、四半世紀という節目の年にあたります。長年にわたる発掘調査の成果、注目される発見などをご紹介します。

豊島区の発掘調査25年

豊島区には現在16か所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡が地下に存在すると推定される範囲）が知られています。こうした場所で建物の建築工事や、道路や地下鉄の工事が行われると遺跡が壊れてしまいます。工事の前に遺跡の調査を行い、その場所で暮らした人々の痕跡を記録として残す作業が発掘調査です。豊島区ではこの25年間で、大小あわせて約270地区の発掘調査を行なってきました。

住宅街や商店街となり、既に遺跡が失われたかに見える豊島区においても、小規模であっても発掘調査を積み重ねることによって、豊富な内容の遺跡が地下に眠っていることがわかってきました。

6　7　8　9　10

豊島区教育委員会教育総務部
教育総務課文化財係　2013年11月

日本郵船地区の植木室
スロープで地下室に下りる作りです。

染井の植木屋の発掘調査

1988年12月から翌年3月にかけて、駒込6丁目で計画されたマンション建設工事に先立ち、発掘調査が行われました（日本郵船地区）。発掘調査では、樹木が植えられていた痕跡（植栽痕）や、植木鉢、鉢植えを寒さから守るための地下室などが発見されました。それまでは文献でしか知ることができなかった江戸時代の植木屋の姿を、初めて目の当たりにすることができたのです。

染井村の植木屋に関わる発掘調査はこれまでに30件近く行われています。数多い植木屋の中では使用する植木鉢に違いがあることや、植木屋と同時に料理屋も営む所があることなどが明らかになりました。さらに、植木屋として繁栄する以前の時代に、とても上質な焼き物が使用されていることもわかってきました。現在でも発掘調査によって、染井村の発展過程を示す重要な資料が次々と発見されています。

植木屋以前の時代の古九谷の大皿
興銀ひろば地区出土

蒔田鎗次郎が描いた弥生土器『東京人類学雑誌』11巻122号

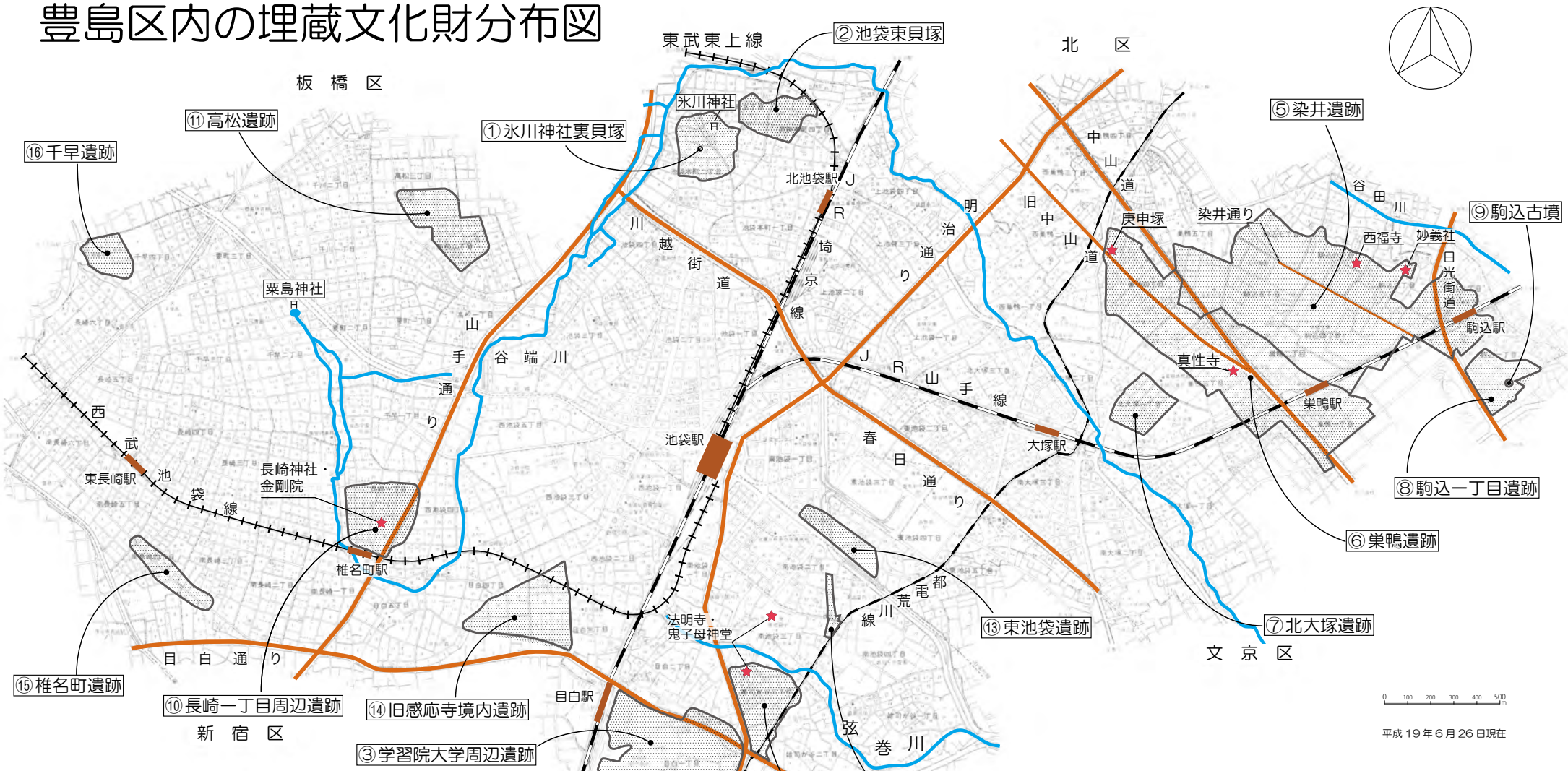
弥生文化研究の舞台 - 駒込一丁目遺跡の弥生集落 -

1896（明治29）年、駒込一丁目に住んでいた蒔田鎗次郎という考古学者が自宅の庭で土器と竪穴住居を発見しました。当時まだ発掘調査の手法は確立されていませんでしたが、遺物が出土する地層や場所を細かく観察して測量を行い、学界に発表しました。蒔田は、年代的位置付けがはっきりしなかった弥生土器が、須恵器（古墳時代の遺物）より古い時代の遺物であることを明らかにし、また竈で煮炊きするため土器に煤が付着することなどを、精緻な観察をもとに指摘し、弥生文化研究に大きな足跡を残しました。

蒔田の発見から約1世紀を隔てた1990年以降、豊島区は駒込一丁目遺跡の調査を本格的に開始しました。これまでに、弥生時代後期（今から1800年ほど前）の20棟の竪穴住居跡が発見され、さらに、近接する染井遺跡には、同じ時期の方形周溝墓（弥生時代の墓）が複数発見されています。現在住宅街となっているこの地域は、昔から生活するに相応しい場所と考えられていたのかもしれません。

表紙写真：1局部磨製石斧（学習院大学周辺遺跡）、2縄文土器の口縁部（染井遺跡）、3弥生時代の台付甕（駒込一丁目遺跡）、4板碑（染井遺跡）、5志野織部皿（長崎一丁目周辺遺跡）、6藤堂家の家紋［蔦］のある碗（染井遺跡）、7植木鉢に転用された半胴甕（染井遺跡）、8スガモの文字入り徳利（巣鴨遺跡）、9竹本焼のテストピース（雑司が谷遺跡）、10北辰舎牧場の牛乳瓶（雑司が谷遺跡）

豊島区内の埋蔵文化財分布図



弥生時代の住居跡
駒込一丁目遺跡(グランドパレスタナカ地区)
火災で焼失した木材が残されていました。

発見された方形周溝墓
染井遺跡(KEYAKI HOUSE 地区)

❸

氷川神社裏で出土した土器片　大正期から昭和初期に地元の方が蒐集したもの。

古墳時代の竪穴住居の調査
長崎一丁目周辺遺跡（福嶋家地区）

❹

豊島区内各地域の遺跡

豊島区北部の遺跡-池袋本町の遺跡-

氷川神社裏貝塚は、1886（明治19 年）に縄文時代晩期の土偶が発見されて、知られるようになりました。その後も縄文時代の遺物が採取されています。最近25 年間は縄文時代の遺構は発見されず、今後も慎重に調査を進める必要がある遺跡です。

池袋東貝塚は、駒込一丁目遺跡を発掘した蒔田鎗次郎が紹介した遺跡です。弥生時代の住居跡や、室町時代の道路遺構がこれまでに見つかっています。

豊島区西部の遺跡-旧長崎村の遺跡-

千早、椎名町、長崎一丁目周辺、高松の各遺跡は、旧長崎村の範囲にあります。これらの遺跡からは、縄文時代から古代にかけての遺物がよく採取されますが、住居跡は、長崎一丁目で発見された古墳時代の竪穴住居跡1棟にとどまります。さらに、道路の側溝、屋敷地や畑の跡など江戸時代の痕跡が見つかっています。

また、長崎一丁目周辺遺跡では、室町・戦国時代の遺構や遺物も発見され、谷端川沿いの低地で稲作をしていた集落があったことが明らかになりました。

豊島区南部の遺跡-雑司が谷、高田の遺跡-

雑司が谷遺跡、南池袋遺跡、東池袋遺跡、学習院大学周辺遺跡では主に江戸時代の痕跡が発見されますが、その他の時代のものも豊富に残っています。

学習院大学周辺遺跡では、旧石器時代の遺物や石器製作跡が発見されました。日本列島に人類がやってきて間もない頃の、豊島区最古の遺跡です。他にも、東池袋遺跡では縄文時代晩期の土器が、雑司が谷遺跡では中世の道路（鎌倉街道か?）や、明治時代に操業していた竹本焼の窯跡が発見されています。

旧感応寺境内遺跡では、寺院の遺構はまだ見つかっていませんが、江戸時代末頃の武家地や、縄文時代の生活の痕跡があることがわかっています。

豊島区東部の遺跡-駒込、巣鴨の遺跡-

駒込、巣鴨、北大塚地域では、江戸時代の痕跡が密集しています。中山道や日光街道が通り、江戸時代後期には町屋や武家地が連なり、植木見物の観光名所として賑わった地域です。遺跡からは、行楽客や旅人をもてなすための食器や、植木屋で使われた道具が大量に出土することがあります。縄文時代や弥生時代の住居跡、中世の遺構もよく発見される地域です。

豊島区の指定文化財

豊島区には345件の登録文化財があります（平成25年10月現在）。その中から、特に重要なものを豊島区指定文化財としています。

【長崎獅子舞・用具一式】〈◎伝承地：長崎 1-9-4　長崎神社　◎伝承者：長崎神社氏子会〉

◇長崎獅子舞は、五穀豊穣と疫病退散を願って、旧長崎村の人々によって伝承されてきました。元禄年間（1688-1704）に長崎村の伊佐角兵衛が、病気平癒の御礼に獅子頭を奉納したことに始まるといわれています。獅子頭をかぶり、腹に太鼓をつけた三匹の獅子が、ササラをもつ四人の花笠と共に篠笛の音にあわせて勇壮に舞い踊ります。

【木造釈迦如来坐像】〈◎所在地：駒込 7-4-14　◎所有者：勝林寺〉※ 非公開

◇勝林寺は、元和2（1616）年に江戸幕府の御殿医中川元享が湯島に創建し、田沼意次が中興再建した臨済宗の寺院です。

この像は一木造りで眼は彫眼、肉身は漆箔、着衣は漆塗りです。高さ50.5㎝と小像ですが、堂々とした大きさを感じさせます。また、面相には威厳をそなえ、衣は彫りが深く、かなり装飾的であることから、平安時代初期（９世紀末）の制作と推定されます。

【蓮華山金剛院仏性寺山門】〈◎所在地：長崎 1-9-2　◎所有者：金剛院〉

◇金剛院は、大永2（1522）年創建の真言宗豊山派の寺院です。この山門は安永9（1780）年に建立されました。天明年間（1781-89）の大火の際に、江戸市中の罹災者を多く助けた功績により、10代将軍徳川家治から朱塗りの山門（赤門）を許されたといいます。その装飾は彫りが深く、意匠的・技術的に優れており、区内で最も古い薬医門と考えられます。

【池袋富士塚】〈◎所在地：池袋本町 3-14-1　◎所有者：氷川神社〉 ※7 月 1 日のみ公開

◇富士塚とは、富士山を信仰・参拝する富士講組織によって築造された人工の山です。

区内にはほかに長崎富士塚（高松2-9-3、昭和54年国指定重要有形民俗文化財）があります。

高さ５m。明治45（1912）年６月に池袋月三十七夜元講によって築かれ、平成24年に築造100周年を迎えました。毎年７月１日に山開きが行われています。

【鹿碑・瘞賜豬碑】〈◎所在地　駒込 1-10-15〉

◇旗本の本郷泰行とその孫の泰固が、自らの事跡を後世に伝えるために造立した石碑です。写真右側の鹿碑には、寛政７（1795）年に11代将軍徳川家斉が下総国小金原で鹿狩を行なった際に、泰行が将軍から鹿を下賜されたことが記されており、左側の瘞賜豬碑には、嘉永２(1849)年に同じく小金原での鹿狩で12代将軍家慶から泰固が猪や兎を下賜されたことが刻まれています。

【富士元囃子・用具一式】〈◎伝承地：要町 1-38-9　◎伝承者：富士元囃子連中〉

◇富士元囃子は、明治40(1849)年頃に長崎村の本橋重太郎が習い覚え、地元の浅間神社および長崎神社の祭礼時に奉納したことに始まります。本橋家が浅間神社境内にある長崎富士塚の富士講の先達を長年務めていたことから、富士元囃子と名づけられたといわれています。９月第２土・日の秋の祭礼では御輿を先導する囃子が要町一丁目界隈を練り歩き、祭りを盛り上げます。

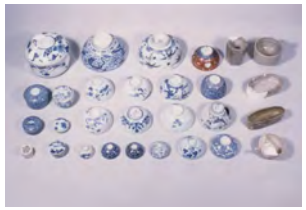
【旧江戸川乱歩邸土蔵】〈◎所在地　西池袋 5-15-17　◎所有者　学校法人立教学院〉

◇この土蔵は、推理小説家の江戸川乱歩（1894-1965）が昭和９年から昭和40年まで住んでいた池袋の屋敷にありました。乱歩はこの土蔵を書庫兼書斎として愛用し、ここで『怪人二十面相』・『少年探偵団』などの名作が生まれました。

関東大震災の翌年（大正13年）に建てられたため、壁や屋根裏は耐震対策を意識した工法となっています。土蔵の内部には、２万冊以上の乱歩の蔵書が当時の状態で保存されています。

【染井遺跡（三菱重工業染井アパート地区）出土化粧道具他一括】〈◎管理者：豊島区〉

◇現在の駒込駅から染井霊園の前までの場所は、江戸時代に津藩藤堂家の下屋敷・抱屋敷がありました。平成７（1995）年の発掘調査で、江戸時代後期の紅化粧・白化粧・お歯黒・眉化粧・髪化粧に関する道具一式が、良好な状態で出土しました。これらは藤堂家または有力家臣の家族が使用していたものと考えられます。また、一緒に出土した筆立てやキセルなども、上級武士階級の女性の日常生活を知る上で貴重な考古資料といえます。



【木造聖観音立像】〈◎所在地：池袋本町 2-3-3　◎所有者：重林寺〉※ 非公開

◇本像は、高さ126.5cmのカヤ材の一木割剥ぎ造りで、裳が膝下でくびれた珍しい形姿の仏像です。明治43（1910）年に、15代住職真誠が伊勢崎市境町周辺の寺より購入したものと伝えられます。平成15（2003）年に行われた解体修理の結果、鎌倉時代後期（13世紀後半）の作と判明しました。

【旧丹羽家腕木門】〈◎所在地：駒込 3-12-8　◎所有者：豊島区〉

◇駒込（染井）は、江戸時代から植木の一大生産地として知られていました。丹羽家は、天明年間（1781-88）から明治末期まで、染井を代表する植木屋として活躍した旧家です。

この門は言い伝えでは、染井通りをはさんで向かい側にあった津藩藤堂家下屋敷の裏門を移築したといいます。江戸時代の腕木門は区内で唯一の事例です。

【旧鈴木家住宅】〈◎所在地：東池袋 5-52-3　◎所有者：豊島区〉

日本の著名なフランス文学研究である鈴木信太郎（1895-1970）と、息子で建築学者の鈴木成文（1927-2010）の住宅でした。「書斎棟」は大正10（1921）年建設、

「茶の間・ホール棟」は終戦直後の建築制限令下に建てられたものです。「座敷棟」は埼玉県内から移築したもので、明治20年代の建築とされています。大正期以来の時代の変化のなかで住みつがれてきた痕跡を追うことができる点が評価されています。